

## 第 16 回日本在宅薬学会学術大会

### シンポジスト講演

「みんなでやってみよう！認知症予防 薬局・薬剤師が地域でできる取り組み」

### 地域の専門職を繋ぎ、認知症を支えるローズマリーの会

総合メディカル（株）そうごう薬局 新倉敷店

岡野 泰子

超高齢社会において認知症患者が増加するなか、本人や家族だけで完結するのではなく、地域全体で支援する必要がある。また、薬局は健康サポート薬局機能として、認知症の早期発見や患者・家族の孤立を防ぐための声掛けなどの役割が求められている。

ローズマリーの会は平成 26 年に、私達の薬局の来局患者で服薬アドヒアランス不良などの困りごとが増えた方について、ケアマネジャーと連絡を取り合ったことをきっかけに、倉敷市大高地区の薬剤師、ケアマネジャー、精神保健福祉士、介護福祉士など 11 名のメンバーで、地域住民の認知症予防や早期発見・早期対応を目指し結成した。活動当初は地域との関わりの糸口が見つけられず、専門職同士の繋がりを作ることから開始した。

現在は倉敷市内の医療機関・介護施設・行政職員を対象に、認知症の高齢者などが効率的かつ適切な医療・介護を受けることが出来るよう、講習会の開催や情報交換が活発になる働きかけなどを継続的に企画し実施している。具体的には、1) 認知症に関する知識を学ぶ座学講習会、2) ケア・カフェ®開催による情報交換の場の提供、3) 認知症サポーター養成講座の実施、4) お薬手帳にケアマネジャーの名刺を入れてもらう働きかけを実施しているが、特に座学講習会とケア・カフェ®については年 2 回程度開催しており、9 年間で累計 1200 名以上の方に参加いただいた。

近年、新型コロナウイルス感染拡大により活動が制限されるなか、出来る範囲での取り組みを続けてきたが、専門職同士が直接顔を合せて話をする機会がなくなり、現場での連携が希薄になってきたように感じる。今回のシンポジウムでは、他の演者の皆様のアイデアや知見を共有することで「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」を改めて考えていきたい。